

水無月、梅雨の季節六月のはじまりです。

今年は、本当に水無月になりそうで、各地の梅雨入りが遅くなることが予想されています。梅雨はうっとうしいのですが、モンスーンアジアならではの恵みの雨。とはいえ、六月は一年で国民の休日が八月とならんで一日もない月です。ハッピーマンデーなどという学校にとっては迷惑な制度より、六月の休日を作る方がよほど生徒、教員のやる気を増進するのではと思うのですが、どうでしょうか。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【 1 】 最新活動報告

5月の活動を報告します。

【 2 】 イベントカレンダー

これからの活動の予定などを紹介します。

【 3 】 授業のヒント

【 1 】 最新活動報告

5月に行われた部会の様子を報告します。

■大阪部会 (No. 43)を開催しました。

日時：2015年5月9日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

参加者：15名でした。今回は、東京部会に出席しているメンバーが3名参加し、大阪取引所からも一名の参加者がありました。

主な内容：

- (1) 野間敏克先生(同志社大学)から、経済教育ネットワークの最近の活動報告がありました。
- (2) 河原和之先生(立命館大学)から、最新の「地理と経済の融合教材」が報告されました。世界地理については、一昨年来インド、ブラジルなど多くの国々についての教材が作成され、今年は日本の地理についても経済の視点からみたものが、現在作成されつつあるとのこと。

今回は主に、特異な「飛び地」である和歌山県北山町を取り上げた教材が紹介されました。これらの教材は、「先生のための夏休み経済教室」で、名古屋、大阪、東京それぞれの開催場所に合わせた「地理と経済の融合教材」として報告される予定です。

(3) 山本雅康先生（奈良学園中高）から、2014 年度大学入試センター試験の問題に加えて、自身が作成した試験問題が配付・解説されました。大学入試の定番の問題を、さまざまにアレンジした問題例です。

(4) 最後に、部会交流の第一号として、東京から参加した塙枝里子先生（都立府中東高）の授業実践がふたつ報告されました。

ひとつは「社会の幸せを経済で考える～横軸から需給曲線を読む」と題されたものであり、生搾りジュースの需要曲線、供給曲線を、生徒への発問から導き出したうえで、「お徳感」をキーワードに、消費者余剰、生産者余剰の考え方にまで導こうとしたものです。

もうひとつは「時間の経済学～あなたはアリ？それともキリギリス？」と題した授業の学習指導案です。利子の意味、時間の価値、時間割引率などの概念を教えることを目指しており、数値例が多く使われているものです。出席者からは、生徒に利子の概念を理解させることが非常に難しいという点、アリよりもキリギリスを支持する生徒が多くなる傾向にある点、この授業が公民・現代社会の授業のどこに位置づけられて何を目指すのかという点などが指摘され、活発な議論が交わされました。

内容の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka43report.pdf>

■札幌部会（No.13）を開催しました。

日時：2015 年 5 月 16 日（土） 14 時 30 分～17 時 00 分

場所：キャリアバンク セミナールーム

参加者：12 名でした。

主な内容：

(1) 各参加者より、近況報告が行われました。
(2) 野間先生（同志社大学）より、年次大会や他部会の報告が行われ、「夏の経済教室」では、兼間先生（常盤中）が大阪中学の部で、山崎先生（北見北斗高）が東京高校の部において、実践紹介を行う旨の紹介がありました。また、塙先生（都立府中東高）の学習指導案が配布され、大阪部会での議論内容が説明されました。

(3) 山崎先生より、『中等社会科教育研究』第 33 号に掲載された論文「『経済的な見方や考え方』を深める農業問題の授業開発」を用いて「何をもち『経済的な見方や考え方』を深めたといえるのか」について問題提起が行われました。これは、経済の授業の結果、生徒が「何をもち『経済的な見方や考え方』を深めたといえるのか」という難問に対する一つの方法として、生徒一人ひとりが「具体的にどのような経済概念を使って認識を深めたか」という観点から、生徒の使用した経済概念を数字で拾うという方法を使って分析した論文です。紹介後、質疑応答と議論が行われました。

なお、近日刊行予定の『中等社会科 21 世紀型の授業実践』という書籍に、昨年、東京部会と札幌部会で報告された、山崎先生の地理の授業実践が掲載されとの紹介もなされました。

(4) 川瀬先生（札幌清田高）より、経済教育のあり方に関する「そもそも論」の私論や、学年集会の講話の報告、北海道ネタの課題と可能性について、説明が行われました。

その後、東京部会にならって「そもそも論」の自由討論が行われました。

主な発言の要旨は次のようでした。

(山下：簾舞中) 山崎論文と同じことを考えてきた。「社会認識とは、自前の概念装置を用いてもものを見たり考えたりすることである。この概念装置を駆使することで、肉眼では見えない様々な事柄が見えるようになる」という箇所に共感を覚える。

(松澤：札幌開成中等) 経済教育の前に、そもそも教育とは何か、なぜ学ぶのか、ということを考えなければならない。となると、最後は「お金の使い方」を学ばせるということに行き着くのかなど。

(竹内：日高中) 特別支援の生徒たちにも、「お金の使い方」を教えることは重要なことと考える。

(吉岡：北見東稜中) 「思考力・判断力・表現力」のうち、思考力を重視してきた。歴史を動かしてきたものは、お金ではないだろうか。現在、歴史を教えているけれども、生徒からは、先生はお金の話ばかりだと言われる。

(山崎) 小学校の先生の視点では下（幼少期）からの積み上げの視点で考えるし、大学の先生の視点からでは上（ゴール）からの視点で考えるから様々でないか。

(野間) 篠原代表による経済教育ネットワークの設立趣旨は、経済学部に進まない子にとっては最後の経済教育になるので、少しでも質の高い経済教育ができたというものだった。私は、「交換の利益」と「ノーフリーランチ」の二つが柱になると思っている。「機会費用」なども、この二つにくっつけられるのではないか。

(濱地：北教大) 私も、経済とは「分業」と「交換」を理解することだと学生たちによく言っている。

最後に、野間先生から、討論に関連して、大竹文雄先生の近著『経済学のセンスを磨く』

(日経プレミア新書) が紹介されました。

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo013report.pdf>

■東京部会（No. 75）を開催しました。

日時：2015年5月20日（水） 19時00分～21時30分

場所：日本大学経済学部本館2階会議室

参加者：12名でした。

主な内容：

(1) 夏の経済教室の準備状況が石山さん（東京証券取引所）から報告がありました。チラシが完成し、5月29日に発送。Webの申し込みは5月29日9:00～。後援関係は例年通りでネットワークと東証で分担して申請。研究会などを通してのちらし配布など宣伝の協力要請を行う。教科書の寄贈は、清水、東書、帝国、日本文教出版に中学現行本を依頼。高校は今年に行わない。中学では、新教科書の採択時期なので、見本本を展示する

などでした。

(2) 夏の教室での講義内容の確認も併せて行いました。河原先生の地理教材の進捗状況、実践報告の「時間の経済学」の検討、篠原先生講義の質問事項などが検討対象となり、それぞれ確認と課題が提示されました。

(3) 各部会報告では、大阪部会に出席した埴先生、石山さんから当日の報告がありました。大阪は東京と異なり、参加者の発言が活発で、教材開発の熱意が高いということでした。東西交流によって、ネットワーク発の教材開発が継続されることが期待されます。

(4) 篠原先生（京都学園大学）から、京都部会の中心メンバーであった奥村光太郎先生の逝去が報告されました。奥村先生は、今春から同志社大学の教授となられ、活躍が期待されていただけに突然の訃報であり、参加者はその逝去を悼みました。

(5) 教材の検討が三本ありました。

第一は、埴先生の「時間の経済学—あなたはありそれともキリギリス—」です。この教材は前回の東京部会の検討後、改定されたもので、大阪部会でも検討されています。大阪部会では、半分までは中学生でも使えるという評価を得たとのこと。東京では、中学生でも前半までなら十分に興味をもって取り組めるだろうから基本はこれでよいという意見が星先生（鎌倉大船中）からいただきました。時間の経済学、割引率の理解がどこまでできるか、ここから何を目指すかが課題であり、みんなで教材としてブラッシュアップしてゆくことが了解されました。

(6) 教材検討の二番目は、大倉先生（松戸向陽高）の「減価償却をどう教えるか」です。これも前回の東京部会で検討されたもので、大倉先生からは、前回の教材の修正版として、ジャムのかわりのお皿版、さらにお皿プラスコップ版の新たな二本が提示されました。討論のなかで、そもそも減価償却が高校生にどこまで必要なのか、国民所得の箇所ですら突然登場する固定資本減耗にとらわれ過ぎているのではないかと、教科書の記述などの改善が必要ではとの意見もいただきましたが、教材としては、コンパクトで使いやすいものになっているので、共有してゆこうということとなりました。

(7) 三番目は、教材検討委員会で取り組んでいる「たこ焼き屋ヤッキー」である。これも前回の改訂版が出され検討が加えられた。生産が変身（付加価値を付け加える）であることを伝えるねらいの教材だが、利潤と付加価値の関係、経費の内訳に賃金が入っていて、その扱い（賃金は付加価値から分配されるが、会計的には費用扱いになる）の難しさをどう処理するかなどが議論がされました。夏の教室での報告までにさらに今回の検討課題を見直して再度検討することになりました。

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo075report.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

これからのイベント、6月以降の部会（開催順）を紹介します。

■夏の経済教室の申し込みがはじまりました。

東京証券取引所との共催で続いている「先生のための夏の経済教室」。今年で8回目となります。（既報）

*日程と会場

- 8月3, 4日（中高向け、名古屋会場、ウインクあいち）
- 8月6, 7日（高中むけ、大阪会場、国民会館）
- 8月13, 14日（東京会場、高校向け、東証ホール）
- 8月17, 18日（東京会場、中学向け、東証ホール）です。

*主な内容と講師

講演：大竹文雄先生（大坂大学）「市場経済への信頼と教育」

大竹先生を中心に調査がすすめられた隠れたカリキュラムの教育への影響を中心に、経済教育の進め方についてお話しいただく予定です。

講義：マクロ経済・ミクロ経済の講義、Basic講座、歴史シリーズ、教科書で教えるシリーズ、金融シリーズ、入試問題を使った経済授業など、これまで好評だった内容をブラッシュアップした講義を予定しています。講師はネットワークメンバーが担当します。なお、今年は、あらかじめ講師の先生に質問事項や話してもらいたい項目を提示して、それに答えてもらうインタラクティブ型の講義の導入を予定しています。

申し込みは以下の東証のHPからお願いします。

<http://www.jpx.co.jp/learning/seminar-events/seminar/03.html>

■名古屋部会（No.2）を開催します

日時：2015年6月13日（土） 15時30分～17時30分

場所：金城学院大学サテライト

名古屋市中区錦三丁目15番15号CTV錦ビル4階

（セントラルパーク地下街10A出口前）

参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya002flyer.pdf>

■京都部会（No.29）を開催します

日時：2015年6月19日（金）19時00分～21時00分

場所：同志社大学 良心館 4階第二共同研究室

参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto029flyerM.pdf>

■東京部会 (No. 76) を開催します

日時：2015年6月25日(木) 19時00分から21時00分

場所：日本大学経済学部本館2階会議室(予定)

参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo076flyer.pdf>

■大阪部会 (No. 44) を開催します

日時：2015年7月4日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト(予定)

大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング17階

詳細はまともり次第UPします。

■札幌部会 (No. 14) を開催します

日時：2015年9月12日(土) 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンク セミナールーム

札幌市中央区北5条西5丁目7番地

sapporo55 5階 (JR札幌駅紀伊国屋のビル)

参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo014flyer.pdf>

■ネットワーク関連団体の動き

(1)野村総合研究所からのお知らせ

「NRI 学生小論文コンテスト」を応援しています。

野村総合研究所が毎年開催している「NRI 小論文コンテスト」が本年度も実施されます。

コンテストの内容、応募方法は以下のHPをご覧ください。

<https://www.nri.com/jp/event/contest/index.html>

【 3 】授業のヒント

■減価償却をやさしく教えよう

今回のヒントは、内容というより、問題提起です。

減価償却の考えを教える必要があると思ったのは、現在、医療関係のコンサルタントをしている元教科書編集者の発言です。彼はこう言います。「病院経営のトップマネジメントを担う医師が、財務について驚くほど無知なことです。減価償却費の意味するところもよく理解していない、損益計算書とキャッシュフロー計算書の相違もつかめていない、況んや損益計算書とバランスシートの関係も腑に落ちていないというのが日常の風景です。これで従業員を抱えて銀行から金を借りて投資しようとするのですから、実におそろしい話です」。

「これって高校以下の学校教育の責任も小さくないと思うところです」。と言うものです。

もちろん、彼の意見が完全に正しい訳ではないでしょう。また、医者に会計学を教えろとか、高校で会計を必修にしろと言うことでもないでしょう。真意は、経済的な見方や考え方が大事なのですが、それだけでなく投資や借金などに関して、しっかりその意味や構造が理解できるようにすることが、現在の教育でおろそかにされているということを言いたいのだらうと思います。

では、どのように減価償却を教えるか。部会報告でもあるように大倉泰裕先生が授業案を作成されています。内容の紹介は、ウェブ上で行われるはずですので、それを待ちたいと思います。中学では、升野伸子先生が生産の教え方で減価償却の考え方も教えられる内容の授業案を作成中です。

ちなみに、先生方のなかで確定申告をしている人は経験があるでしょうが、パソコンの減価償却は4年です。カメラは5年です。買った金額が一度に費用として計上できるわけではないのです。

ここから国民所得の固定資本減耗の理解まではもう少しです。

私たち教員は、リアルな経済との接点は多くはありません。だからこそ、まずは身近な事例で減価償却の考え方、さらには、複式簿記の考え方を、現在のカリキュラムのなかで自然に、かつやさしく教えられるような授業案を開発してゆく努力が、もっと求められていると言えるでしょう。(新井)

【 4 】編集後記 (みみずのたはこと)

東京部会の報告にもありますが、京都の奥村光太郎先生の突然の訃報には、本当にびっくりしました。毎年の夏の経済教室(大阪)にも出席されて、一番前に座って講義を聞き、質問をされていました。その姿が思い出されます。ご冥福をお祈りいたします。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお
手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====

◆◇
編集・発行 : 経済教育ネットワーク
————— (C) Network for Economic Education ◆◇